



**令和4年度(2022年)の重点(案)**

① 「自信と感謝のもてる生活」

② 「未来を切り開く確かな学力」

③ 「一人一人が個性を発揮し、互いを認め合える環境」

□学級、学校生活づくりを通して

- 「あいさつ」常に交わされるあいさつ
- 「歌声」響き合う精一杯の歌声
- 「清掃」気づきの清掃
- 場に応じた声量、積極的な発言
- 自信をもって発信する姿

□生徒同士が絆をつくる場の提供を通して

- 主体的に取り組む協働的な活動、自治的な活動の場づくり

□将来への夢を持ち、郷土小川とつながる活動を通して

- 職業適性検査等を活用し、自己理解を深め、自己のよさや可能性を生かして自己の在り方生き方を設計する力を育む学習。
- 地域の職業人(U,Iターナー)を活かした進路講話学習。
- キャリアパスポートの活用。
- 地域の事業所での職場体験学習。
- 「一日小川」の実施。
  - ①薬師沢石張工での体験活動
  - ②高齢者との交流
- サンリング訪問と福祉体験学習の実施。

□総合的な学習の時間を通して自己の生き方を問うことで

- 地域学習での地域の方々との交流や学んだことを発信することで。
- 職業講話や、地域での職場体験学習で学んだことを発信することを通して。
- 満蒙開拓平和記念館見学、松代大本営地下壕見学や、広島原爆資料館訪問と被爆体験者講話、地域の方の戦争体験講演会から学んだことを発信することを通して。

□言葉の力を高める授業づくり

- 教科の専門的な言語を使い、相手に伝わる説明や発表ができるようにする。
- アサーショントレーニングを行い、相手を受け入れながら自分の伝えたいことを伝えていく会話ができるようにする。
- 発表や説明をする機会をつくり、他者意識をもって「聞く」、「話す」ができるように相互評価を取り入れる。

□資質、能力を育む授業づくり

- 題材との出会わせ方や単元展開を工夫し、生徒自らが「問い」のもてる学習。
- 題材、単元ごとに付ける力を明確にし、その要素を視覚化、アイテム化したものを利用した課題解決学習。
- 題材、単元ごとに到達度を明確にした評価(ルーブリック)を生徒と共有し、何が、どこまでできたのか自己評価を重ねる学習。

□主体的、対話的で深い学びのある授業づくり

- 習得している知識・技能を基に、自分なりの見方や考え方を働かせ、思考、判断、表現をし、より高次に体系化された知識・技能を新たに身に付け、意欲を高める。この好循環のある学習。

□ICT活用及び研究の充実

- Chromebookを活用した授業研究、研修・研究
- デジタル教科書を利用した授業研究

□学力、学習意欲の向上

- 小中で連携した家庭学習の手引き利用と学習週間の実施。
- 自ら学習課題に向かう姿勢づくりと、基礎・基本の定着のための小川塾の実施。
- 各種検定3級以上の取得を目指し、英語、漢字、数学検定のいずれかを全員が受検する。

□日常生活の中で人権について扱うことを通して

- 日々人権問題に気付かせる指導を行い、人権感覚を磨く。
- 自尊感情を高めたり、多様性を尊重したりする題材や教材を扱う。
- 年2回の人権学習月間の実施。
- 人権講演会の実施。
- 道徳授業の確実な実施。
- ボランティア活動の推進。

□生徒の心情に寄り添い、受容と共感を基盤にした指導を通して

- 学びの場や学び方、または共有方法について個別最適化された環境を計画、実施する。
- 温かい愛情と厳しさを持って取り組む生徒指導と部活指導を心掛ける。
- 毅然とした態度で、いじめや差別に対応し、誰もが安心・安全な学校生活を送れるようにする。
- 生徒の実態に寄り添い、温かく見守りながら、生徒の成長を待てる、共に成長する教師の姿勢。

□学校職員全員が一人ひとりの生徒を見ていく組織的な生徒対応を通して

- 複数担任制の実施。
- いつでも相談できる「相談室」の設定
- カウンセラー、理学療法士、担任、担任以外の職員との懇談を実施。
- 各学期に生活アンケート、教育相談週間の実施。
- 個別の課題に対応する家庭学習の実施。
- コロナ禍に対応したオンライン授業の実施。

保護者・学校運営協議会・生徒・教師による学校評価を行い、PDCAサイクルを構築します

